研究成果

大豆栽培における栽植密度とコンバイン刈取収量の関係

作物部

1．背景・目的

生産現場では省力化等のため大豆の播種量を減らし、疎植で栽培する場合があり、これにより最下着莢位置が低下し、コンバインによる刈取ロスが増加している可能性があります。ここでは、栽植密度と最下着莢位置等の関係を明らかにし、コンバイン刈取収量への影響を確認しました。

2．内容

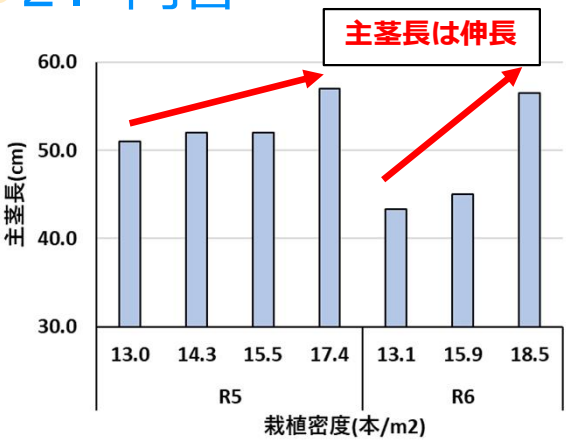

図1　栽植密度と主茎長

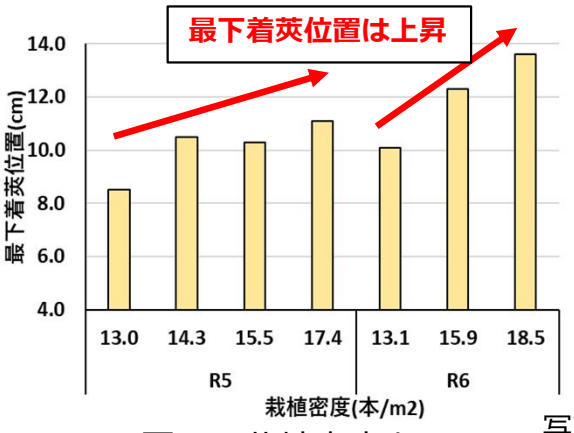

図２　栽植密度と最下着莢位置

写真１　異なる栽植密度による個体の違い（左：13.1本/m²、右：18.5本/m²）

栽植密度が高いほど主茎長が長く（図１）、最下着莢位置が高くなりました（図2、写真１）。

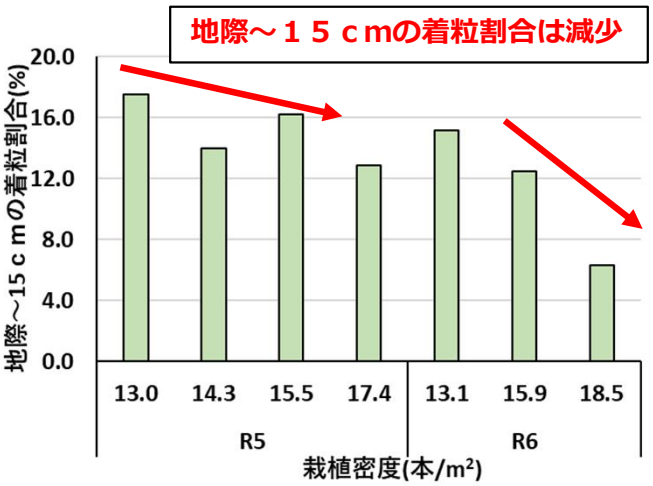

図３　栽植密度と着粒割合

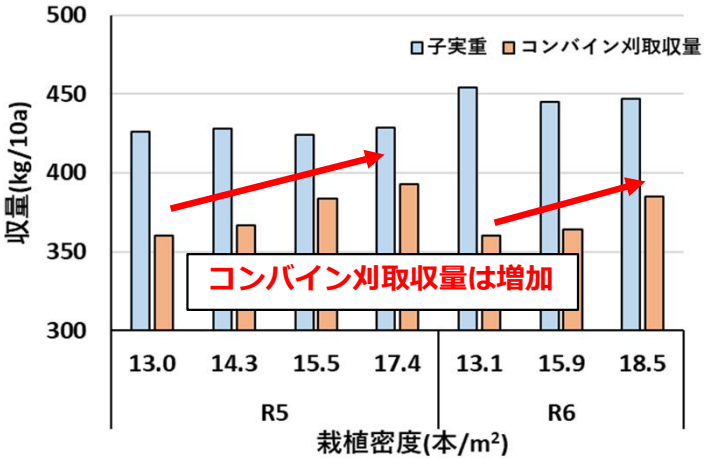

図４　栽植密度とコンバイン刈取収量

栽植密度が高いほど、地際～15ｃｍの高さに付く莢は減少しました（図３）。また、栽植密度が変わっても坪刈りの子実重はほぼ同等ですが、コンバイン刈取収量は栽植密度が高いほど増加しました（図４）。

農林総合研究所　作物部
Tel. 0172-52-4396
E-mail　nou_souken@aomori-itc.or.jp

あおもりの未来、技術でサポート
Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人　青森県産業技術センター